

令和 6 年度 大阪府立羽曳野支援学校 第 3 回 学校運営協議会

開催日時	令和 7 年 3 月 3 日（月） 10:00～11:30
開催場所	本校 図書室
出席者	大堀委員、亀田委員、中條委員、平賀委員、前田委員
出席者	東野校長、岩田教頭、井川教頭、嶋本事務長 和田首席、松山首席、大林首席、辻本教諭
傍聴者	なし
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会次第 ・ 学校教育自己診断アンケート結果を踏まえた考察 ・ 令和 6 年度学校経営計画及び学校評価 ・ 令和 7 年度学校経営計画及び学校評価 ・ PT1・PT2 活動報告
備考	

議事等（次第順）
<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 【協議】</p> <p>①学校教育自己診断アンケートについて</p> <p>②令和 6 年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>③令和 7 年度学校経営計画について</p> <p>【報告】</p> <p>①校内プロジェクトの進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト 1（不登校支援） ・ プロジェクト 2（ICT・オンライン授業支援） <p>3 意見交換</p> <p>4 閉会のあいさつ</p>
協議内容・連絡報告事項等

【協議】

①学校教育自己診断アンケートについて（岩田教頭）

- 肯定的評価が高かった項目についてはこれまでの取り組みを継続発展させていく。
- 肯定的評価が低かった項目の今後に向けた対策
 - ・医療機関と地域校をつなぐ役割に関する項目
学校と病院・地域校との情報共有や連絡会議を通じた連携の充実

 - ・いじめに関する項目
学校・前籍校・病院との連携の充実
「学校いじめ防止基本方針」について学校・病院との共通理解の促進
 - ・進路指導に関する項目
児童生徒の状況に応じた「キャリア教育」の在り方の探求
「キャリア教育」の在り方の探求
自立活動や特別活動の充実
 - ・学校組織に関する項目
業務分担の見直し、業務内容の精選・見直しの実施
 - ・学校に対する意識、生徒指導・児童生徒理解に関する項目
教育課程の検討、児童生徒の状況に応じた時間割の編成
「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の改訂版の運用
教科会の再編及び活性化
 - ・災害対策に関する項目
「危機管理マニュアル」等、各種マニュアルに則った対応の徹底と見直し
「安全安心」に関することについて、広報の活用

②令和6年度学校経営計画及び学校評価について（東野校長）

学校教育自己診断アンケートの結果について全体的な傾向としては肯定的な意見が多かった。

ただ、教職員と児童生徒の評価にギャップがある項目として、「キャリア教育」が挙げられる。これについては教職員と児童生徒の言葉の定義の違いによるものと考えられる。「キャリア教育」・「生きる力」をどう考えるか子どもたちと共有していく必要がある。

また「いじめ」に対する抑えについては学校と病院には差がみられる。学校は本人が「いじめられている」「嫌だな」と感じた場合は、「いじめではないか」というスタンスで対応をする必要がある。このことについては病院とも共通理解が持てるよう働きかけていきたい。

今年度の取り組み内容に対する自己評価については全項目についておおむね達成することができた。

③令和7年度学校経営計画について（東野校長）

目指す学校像は令和6年度と同様

中期目標は内容としては変わらないが、より分かりやすいように文章表記を若干変え

ている。

●児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びの充実

①体調で授業に参加できなかった児童生徒に対してのオンデマンド授業の試行実施。

②キャリア教育の充実を目指すために（R6年度作業学習に取り組んだ）阪南分教室以外でも作業学習に取り組む。

③プログラミング教材を3つ以上試作。

●府立学校として、センター的機能の新たな発揮

①学校に行きづらさを感じ始めた児童生徒へのアセスメントや指導支援の方法を他教育機関（地域の小中学校や適応指導教室等）の教員に伝えるとともに協働して行う。

②復学（退院）に伴う児童生徒の不安等を軽減するために原籍校とのオンライン活用の実施や、地域校と入院児童生徒とをつなぐオンライン授業の支援を実施する。

●安全で安心な学校生活を送ることができる学校づくり

①入院期間が全く違う児童生徒に対応するため、羽曳野支援学校としての新たな人権教育プログラムや教材づくりを進める。

●教職員の働き方改革

①校務分掌の数を減らし校務運営の効率化に取り組む。令和8年度から実施できるように令和7年度は議論を進めていく。

⇒ 令和7年度学校経営計画について 【承認】

（委員より）

・「キャリア教育」は一般的な学校においてどのような取り組みがされているのか教えていただきたい。

⇒職業体験や実際に働いている方の講話を聴く等体験を通じた活動が重視されている。

・「いじめ」について学校のとらえ方と世間のとらえ方の違いについて

⇒本人が「嫌だ」と思えばいじめを想定した対応を学校は取らないといけない。「いじめアンケート」についても年に3回実施している。このアンケートで回答された内容についても毎回丁寧に対応している。病院の方々にもいじめへの対応については今後丁寧に伝えていく

・病院との日常的な情報共有の充実はどのようにしていくのか

⇒基本的にはできているという認識ではあるが、学校から病院に伝えるべき情報について病院内で広く共有していただくにはどのようにすればよいかという部分は検討する必要がある。

・地域校との不登校支援の協働とは

⇒地域校から少し困り感のある子を見てほしいとの依頼があれば、教員を派遣してアセスメントを行い、支援方法等についてお伝えしていければと考えている。

・（復学に際して）羽曳野支援学校の細やかな対応がすべて原籍校に伝わればよいと思う。

- ・キャリア教育に関して、いろいろな職業の方とオンラインでつないで話を聞くような取り組みができればよいと思う。

【報告】

①プロジェクト1（大林首席）

つまずきや認知発達に課題のある児童生徒への不登校支援を想定し取り組んできた。今年度は校内においてそのような対象となる児童生徒に対し、チェックシートの活用やPTの担当教員が該当の児童生徒の授業に入り込んでアセスメントを行い指導・支援の方法を担当等に提案をした。今後はこのような取り組みを校外に向けて行っていきたい。

②プロジェクト2（辻本教諭）

オンラインによる授業やミーティング等への支援を想定して取り組んできた。今年度はシステムの検討とマニュアルの作成を行った後、校内で本校と分教室をオンラインでつなぎ試行作業を行った。今後は、試行運用・課題検討・マニュアルへの反映を繰り返し、関係機関との接続にも取り組みながらより良いものをめざしていきたい。